

平成29年度

**柏市
町会・自治会・区
活動事例集**

柏市地域支援課

柏市地域協働を考える会

はじめに

1. 作成趣旨

この事例集は、柏市内の町会等（町会、自治会、区）の積極的な取り組みを広く紹介するもので、3冊目になります。

地域活動にあっては、困り事など多くの課題があります。その一方、課題の解決に一生懸命取り組んでいる町会等もあり、この度、課題解決のヒントを得るために、市内の町会等を取材し、事例集としてまとめました。

この事例集を手にとって下さった方が、御自身の町会等以外の取り組みを知り、地域活動に活かしていただければ幸いです。

2. 協働事業紹介

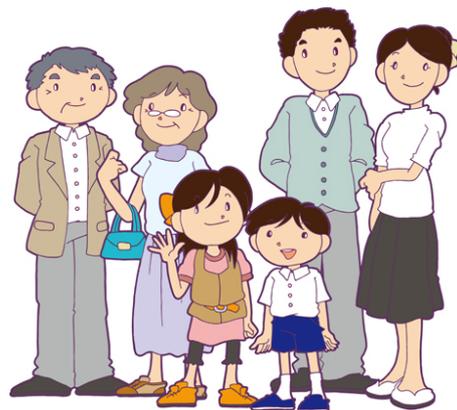
現在、柏市地域協働を考える会と柏市地域支援課は、協働で地縁組織のあり方を模索しており、この事例集はその一環として、取材と編集を行いました。

事例集の他、町会等情報交換会の開催などを、協働で開催し4年目となりました。また、今回は町会長の皆様のご協力を得て、「役員体験談」を編集、発行することができました。

3. 柏市地域協働を考える会の紹介

柏市地域協働を考える会は、柏市地域支援課と協働し、町会や自治会、区等の困りごとや課題について、共に考え、これを自ら解決することを目的に、平成26年に発足した公益活動団体です。

柏市と町会等の地域団体の協働促進に役立てることを目指し、中間支援を行っています。

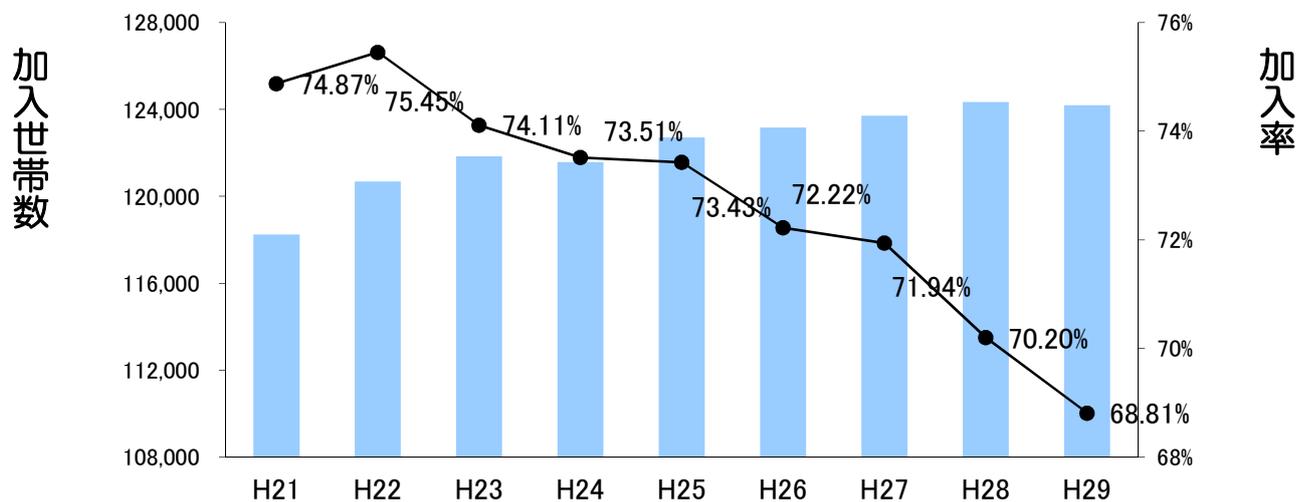


目次

1. 「困りごと推移」による、課題提示	…P.	3
2. 町会等情報交換会、取材活動の紹介	…P.	4
3. 課題解決のために		
1) 役員の確保、若い人の町会等参画促進のために	…P.	5
2) 地域の高齢化に対応するために	…P.	6
3) 加入率低下抑制のために	…P.	7
4. 特徴ある活動事例		
1) 役員の確保、若い人の町会等参画促進活動	…P.	8
2) 地域の高齢化対応施策	…P.	12
3) 加入促進活動	…P.	14
4) 防災防犯活動	…P.	15
5) 地域福祉活動	…P.	24
6) 環境美化活動	…P.	26
7) 組織運営	…P.	27
8) アルバム	…P.	31
5. 資料編	…P.	35
6. インタビューを終えて	…P.	36

1. 「困りごと推移」による問題提示

柏市の町会、自治会、区（以降、地域組織と記載します）の加入率は年々下がっており、住人同士のつながりが希薄となり、地域コミュニティの衰退が始まっています。平成29年度は、加入率が70%を割ってしまいました。



柏市の町会、自治会、区の加入率推移

また、会長職へのアンケート結果からも、運営上の最大の問題は、地域の高齢化に伴う①役員への担い手不足、②未加入者・脱退者の増加が深刻であることが、示されています。更に、地域環境の悪化や組織運営の難しさなど、多くの問題があることも分かりました。

その一方、市民の高齢化に伴い、ますます近隣同士の支え合いの充実が必要になってきており、地域組織の重要性が増しています。

柏市地域組織の困りごと

平成25年度～平成28年度の困りごと上位5位の推移

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
第1位	市窓口、手続き	町会未加入	役員不足、高齢化	役員不足、高齢化
第2位	防災整備不備	空き地、空家増加	町会未加入	町会未加入
第3位	防犯活動不活発	役員不足、高齢化	空き地、空家増加	住民の高齢化
第4位	資金不足	住民の高齢化	ゴミ集積所問題	推薦委員不足
第5位	住民の高齢化	市窓口、手続き	資金不足	道路不備、渋滞

本資料は、平成25年度から平成28年度の町会長会議資料より柏市地域協働を考える会が作成しました。尚、平成29年度はアンケートを実施しておりません。

2. 町会等情報交換会、取材活動の紹介

平成27年度より、柏市地域支援課と柏市地域協働を考える会の協働事業として「町会等情報交換会」をスタートしました。各地域組織で工夫や努力をしている内容を情報共有し、参考にして頂く目的で開催しています。

地域組織の役員の方々と、市役所職員、柏市地域協働を考える会メンバーで、共通の課題を出し合い、解決策を探るため、様々な情報交換を行いました。今まで、話し合ったテーマは以下です。

平成27年度	第1回	町会、自治会、区等への加入促進策
	第2回	加入促進策・脱退抑制策
	第3回	どうする町会等の運営や高齢化への対応
平成28年度	第1回	若い人の町会等参画（行事参画，役員登用） ・グループワーク・ディスカッション
	第2回	若い人の町会等参画（行事参画，役員登用） ・我孫子市笹山町会事例紹介
平成29年度	共通テーマ	地域の高齢化に向き合う
	第1回	高齢化に伴う課題とは ・高齢者支援課より、柏市の実情説明
	第2回	元気な高齢者が住む地域づくり ・福祉活動推進課より、柏市の戦略説明

平成29年度の「地域の高齢化」については、町会等の役員のなり手がおらず、町会運営の継続性に危機感が拡大しています。更に地域住民の高齢化に対応する「地域の支えあい活動」の進め方や若手の町会等活動への参画について、たいへん悩んでいる多くの参加者から意見が出されました。すでに支えあい活動が進んでいる町会等や、うまく若手世帯を巻き込んでいる町会等のご意見は、とても参考になりました。

「町会等情報交換会」の内容も、本事例集に掲載しています。詳細内容は、柏市役所のホームページから閲覧できますので、ご参照下さい。

また、柏市地域支援課と柏市地域協働を考える会では、各地域組織の活動を取材させて頂き、貴重な情報を本事例集に掲載させて頂きました。今まで51の町会等の取材を終え、皆さんが、それぞれの地域の実情に合わせ、様々な工夫と努力をされていることが分かりました。

今後も、「町会等情報交換会」「町会等取材」を継続致しますので、皆様のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

3. 課題解決のために

協働事業を開始し3年間の町会等情報交換会、取材活動などから得られた各町会等の貴重な情報より、大きな課題として、①町会等役員が確保できない、②地域の高齢化、③加入率の低下、④若い人が町会等の行事や役割りに参画しないが上げられています。各町会等の役員の皆様が、課題を分析し、様々な解決策を模索している事例や方策を、以下にまとめました。

1) 役員の確保、若い人の町会等参画促進のために

役員の確保、若い人の町会等参画の現状

- ①役員が確保できず、何年も同じ役員が継続せざるを得ず、高齢化が進み活動が形骸化（固定化）している町会等がある。
- ②行事に参加するのは同じ役員と会員だけで、会員全体の交流が図れない。特に若い人が町会等から離れている状況が、市全体に見られる。
- ③上記より、町会等の活動が停滞し、地域力の衰退が懸念される。



役員不足、若い人の町会等不参画の原因

- ①役員は、町会等行事や役割が非常に多く、時間が取られている。
- ②時間が取られる割には、何をどのようにやって良いのか分からず、苦勞するだけで報われない。
- ③新たに役員になっても、言われるままにやるだけで、新たな提案に抵抗感が大きく、充実感を得られない。
- ④会員からの依頼事項やクレームの処理がたいへん。
- ⑤町会等の会議や行事の時間帯に、仕事などで時間が取れない。
- ⑥町会等役員は、連絡にメールやSNSを使ってくれない。
- ⑦若い人の意見に聞く耳を持たない役員がいる。



役員の確保のための施策事例

【町会等役員の業務軽減】

- ①会合を減らし、関係団体の会合には役員を分担して出席する工夫をする。
- ②IT（メールやSNS）活用で、連絡や報告の時間を軽減する。
- ③誰でも町会等運営ができるよう、記録を残しマニュアルを揃える。
- ④町会等とふるさと協議会の重複事業を見直す。

【若い人の役員登用】

- ①若い人が受けやすい方法や行事、役割を設定し、任せる。
- ②若い人が町会に関わる機会を工夫。役員推薦にくじ引き、輪番等も良い機会。
- ③若い役員のサポート体制を作る。院政は逆効果、ベテラン役員はサポートに徹する。
- ④若い人の得意分野を活かす。特にホームページ等での広報活動には、若い人の力が必要。
- ⑤町会等活動に参加する価値（報酬、仲間づくり、地域を知る等）を得られる配慮や方法を検討、実施する。

若い人の町会等参画促進施策事例

【若い人の町会行事参加促進】

- ①学校やおやじの会、子ども会（子ども育成会）等の若い人の団体との連携。
- ②時間的負担の少ない、行事のお手伝いサポーター制度を取り入れる。
- ③若い人に、子ども向けや子どもと一緒にできる新たな企画、運営を任せる。
- ④年配者が上から目線になって、過去の経験を押し付けないことや、小間使いにしないよう心掛けることが大切。

2) 地域の高齢化に対応するために

地域の高齢化の現状

- ①高齢者数の増加
 - ・65歳以上 10.5(2017年)→11.2万人越え(2025年) 7.1%増
 - ・75歳以上 4.8(2017年)→6.8万人越え(2025年) 41.6%増
 - ・100歳以上 140(2017年)→400人越え(2025年)予想 286%増
- ②高齢者への給付金の上昇に伴う、若い世代への負担増
 - ・介護給付金が10年で1.84倍(2025年)
- ③柏市は元気な高齢者が多い市町村
- ④「社会参加している人」「サロンに通っている人」は、要介護になり難い
- ⑤柏市は、健康状態の把握、近場の居場所作り、孤立し易い高齢者の低減を推進



地域の高齢化対応の課題

- ①独居者、自宅から出ない高齢者の増加（限定的なサロン利用者、支援者不足）
 - 孤独死発生、要介護者の増加
- ②外出が困難な高齢者への支援に対する法的な規制
 - 地域で、どこまで支援できるか曖昧（事業者と町会等）
 - 個人情報や活動費の扱いが不明
- ③「支え合い活動」は始まったばかりで、町会や自治会などにより差異あり
- ④支え合い活動とK-Netの進め方が分からない



地域の高齢化対応事例

- ①高齢者の趣味や健康づくり等を楽しむ「集いの場」や、特技や時間を活かす「活躍の場」を開設（町会等や有志が運営）
- ②民生委員や健康づくり推進員が運営する「サロン活動」へ、運営スタッフとしての参加や資金的な支援
- ③柏市が推進する「支え合い活動」への協力

3) 加入率低下抑制のために

加入率低下の現状

- ①戸建て住宅の多い地域での加入率は高く、集合住宅の多い地域での加入率は低い傾向がある。
- ②新たな転入世帯が、加入していない。
- ③高齢化に伴い、役割を担えないことや、町会等費用負担があり、脱退する世帯が出てきている。



加入率低下の原因

- ①転入世帯に町会等加入の情報が行き渡っていない。
- ②既加入世帯にも十分な活動情報が届かず、加入意義を感じない。
- ③集合住宅の世帯は、一時的住居であったり、地元意識が希薄であるため、地域活動の必要性を感じない。
- ④高齢世帯には、体力的負担、経済的負担が重い。



加入率低下抑制施策事例

【戸建て住宅への対応】

- ①町会等会員へ、積極的に活動方針や事業内容、会計の報告を、会合や回覧、広報紙などを利用し、理解を促す機会を増やす。
- ②転入者へ、町会等のパンフレットや加入案内を手渡し、加入を促す。
- ③高齢を理由に脱退する人へは、会費減額や役割（班長や行事の手伝い等）免除を行う。

【集合住宅（アパート、賃貸マンション）への対応】

- ①集合住宅の町会等加入の扱いを明確にし、オーナーもしくは管理会社との連携を図り、棟単位での加入も一案とする。
- ②戸建て会員と加入条件（会費、役回りなど）を変える。

【柏市役所、ふるさと協議会連合会の対応】

- ①千葉県宅地建物取引業協会との協定（町会等加入促進）を締結。
- ②市窓口での転入手続きの際に、町会等加入促進の案内（パンフレット）を配布。
- ③町会等加入促進ポスターの作成、掲示。



4. 特徴ある活動事例（平成 29 年度取材分）

（各町会等の施策については、平成 27、28 年度の活動事例集も合わせてご活用下さい）

1) 役員の確保、若い人の町会等参画促進活動

① 柏ビレジ自治会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 田中地域
2. 世帯数 : 1574 世帯（平成 29 年 4 月）
3. 町会設立 : 1983 年

【町会等役員の確保施策】

1. 各支部で選出方法は異なるが、順番や抽選をしている支部もある。会長候補は互選で選出される。女性役員が、支部長や副支部長を含めると 40% (18 人/45 人) が就任しており、活躍している。
2. 旧役員は、引継ぎ後に「アドバイザー」として 1 年間、会長経験者は「相談役」として長く協力をする体制を作り、新役員の大きな後ろ盾としている。

【若い人の町会等参画促進施策】

1. 「若い世代も含め誰もが住んでみたいと思い、住んでいる人たちが住み続けたいと思う街」をスローガンに、積極的に取り組んでいる。
2. 自治会主催のイベントを盛り上げてくれる「疾風太鼓」「踊りの会」には、夏まつりや餅つき大会で活躍してもらっている。イベントは、実行委員会を設置して進めており、更にイベント等を経験した元役員などが「サポータ」として大きな協力をしている。
3. 子ども会の経費はすべて自治会で負担しており、主に若いお母さん達が運営している。子ども会の役員は、自治会の会合にも出席しており、自治会よりイベントへの応援を依頼されている。
子ども会は、子どものためにやっている活動であり、自治会は「資金は出すが、運営には口出しをしない」スタンスである。

②柏市つくしが丘町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 光が丘地域
2. 世帯数 : 1502世帯(平成29年4月)
3. 町会設立 : 1964年

【町会等役員の確保施策】

1. 若手中堅の会や協力団体の女性から、町会役員に就任される方がおり、役員の固定化を防いでいる。女性役員は、先輩役員から快く受け入れられ、楽しく参加していると話す。
2. 新たに町会役員になっても、歴代の町会長経験者が、顧問や相談役となり支援を行う体制ができている。

【若い人の町会等参画促進施策】

1. 1994年に町会30周年記念行事の中で、夏祭りで繰り出すお神輿の担ぎ手を募集したことをきっかけに集まった若手お父さん達が、その後も積極的に町会活動に協力するようになり、2007年に若手お父さんの会である「若手中堅の会」が発足した。その後も継続的に町会活動に積極的に関わっている。
2. 「若手中堅の会」のメンバーは、平日が仕事で忙しい年代であるため、「夏祭りを支援する活動で、強制的な会では無く、縛りの無い、緩やかな組織」をモットーに運営されている。現在は、学生や女性も含め、行事も増え町会行事の夏祭り(神輿、パレード、縁日等)や餅つきの支援や、独自のレクレーション行事も行っている。町会とは別組織であり、会員100名程度の町会の協力団体である。会員の中には自分の父親が「若手中堅の会」の会員である二世も在席する。

③柏の葉キャパ 一番街町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 田中地域
2. 世帯数 : 977世帯(平成29年4月)
3. 町会設立 : 2009年

【町会等役員の確保施策】

1. 役員の選出は、完全輪番制。そのため予程の事情が無い限り断る人はいないが、町会長は、役員の中からの互選なので若干の難しさはある。

しかし、前会長を初め経験者へ気軽に相談できるような環境や、町会長／副会長などという組織上の上下意識が薄く、協力し合える関係を作っている。

2. 町会長の引継ぎ事項は、初代の会長が作成された電子データを、代々手直しを加えながら CD-ROM 等の媒体で申し送りしている。

【若い人の町会等参画促進施策】

1. イベントについては、実行委員会を立ち上げ、実質的に実行委員会が取り仕切っている。

④あかね町町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 新田原地域
2. 世帯数 : 345世帯（平成29年4月）
3. 町会設立 : 1960年以前

【若い人の町会等参画促進施策】

1. 「青年部」を平成28年度に創設。委員は一本釣りで確保し、町会からは口出しをせず、任せるようにしている
2. イベントとして「夏祭り」「餅つき大会」を開催
3. 「新生児祝い金」を創設
4. 「サポータ制度」を導入

⑤各町会の役員確保施策事例

1. 親子多世代交流をはかる旅行や、気楽に参加できる防犯パトロール制度を、役員発掘の場としている。（高柳区）
2. 会長、班長等役員は毎年交代する。班長の中からブロック長が決まり、ブロック長(10名)の中から役員が互選で決まる。班長やブロック長は順番が多く、初めてブロック長になったとたんに会長になることも。（柏市西原町会）
3. 全役員は1年輪番制で、70名の班長が一堂に会して会長等役職を決める。決まらない時は、じゃんけんで決める時もある。（手賀の杜自治会）

⑥各町会等の若い人の町会等参画促進施策

1. 自治会は若い世帯が多く、イベント部が夏冬祭の企画運営、児童シニア部が子育て交流会やお寺でのプチ修行、ハロウィン祭などを企画、運営。
(手賀の杜自治会)
2. 小世帯(33世帯)の自治会なので、自治防災会が中心となり、「防災意識を高くするには、地域コミュニティを意識する必要がある」との考えから、①ファミリー(ワンコイン)懇親会、②餅つき、③農家と連携したイチゴ狩りなど、若い世帯を狙ったユニークな行事を実施。
(酒井根四季美自治会)
3. 年に1回、バス旅行を行っている。関東周辺に、バス2~3台で観光と美味しい食事を目玉に開催し、児童から高齢者まで、若い世帯も含め多くの参加者がいる。応募の案内を出すとすぐに満席となる。(豊住町会)
4. 20年以上前に発足した、ブロック委員(班長)の任期終了後に、町会等のイベント毎に、集まってくれるチームがあり、常時100名を超える会員が登録している。
毎年、町会等の役を降りると必ずチームに誘い、特に若い人に呼びかけている。チームに入るとイベントの準備や手伝いをできる時だけ手伝う。若い人が、無理なく、自分の都合に合わせて協力できる体制をつくっている。

また、8年前に若いママたちの集まるチームが発足し、ママ友で自主的にイベントの企画や運営で活躍している。町会等の女性役員とママたちのチームメンバーのつながりが良い関係を構築し、継続的に活動がなされている。

町会等は企画や段取りに専念し、実行は若い人に任せている。若い人は普段は仕事があり、計画や段取りができないので、それは町会等のベテラン役員が担当し、準備や当日のお手伝いに町会等の若い役員やチームのメンバーが活躍できるように運営されている。

若い人は、イベントの当日に体一つで参加し、協力できる体制が整っている。(以上、柏市南部の町会等)

2) 地域の高齢化対応活動

① 柏の葉一丁目自治会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 田中地域
2. 世帯数 : 188世帯 (平成29年4月)
3. 町会設立 : 1987年

1. 平成27年に三自治会・町会(柏の葉二丁目町会、柏の葉三丁目町会と合同)で、柏の葉サポート隊「ひふみ」を立ち上げ、毎週金曜日13時より3時間コミュニティカフェを開催。毎回12~15人ほどの参加があるが、殆どが女性。ワインの試飲企画を行った時は男性が多かった。介護保険の補助金を活用し、地域包括支援センターからのサポートもあり柏市が15箇所指定している通いの場所のうちの一つ。
2. 地区社協で20年前に立ち上がった「みつば」は有志の方によるサロンや脳トレ等を行っている。

② 高柳区の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 風早南部地域
2. 世帯数 : 3679世帯 (平成29年4月)
3. 町会設立 : 1955年

1. 地区社協が中心となり多世代交流として他人の孫「たまご」の呼称で子どもを巻き込んだ活動をしている「みんな集まれ柳の木」のボランティア団体が担い手となっている。
2. 普段の見守り活動メンバーは、民生委員(16名)の他に、福祉委(100余名のボランティア)が担当。
3. 支えあい活動は、枝切り(500円)、草むしり、ゴミ出し(50円)などを行っている。
4. 「ボランティアコーディネーター(支える人、支えられる人との調整役)(民政委員経験者)」を配置しており、コーディネーターの研修を行っている。

③あかね町町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 新田原地域
2. 世帯数 : 345世帯(平成29年4月)
3. 町会設立 : 1960年以前

1. 防災福祉 K-Net 活動は、柏市が始める以前より支え合い活動を始めていたこともあり、平時の見守り活動を含め、確実に進められている。班毎に「支援者連絡会」を1~3か月毎に開かれている。
2. 敬老の日のお祝いは、子ども含めお祝いの品を一軒一軒届け喜ばれている。
3. 一人暮らしの方との「昼食懇談会」やサロン「歌声」を気まま館で開催。

④サルビア会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 豊四季台地域
2. 世帯数 : 176世帯(平成29年4月)
3. 町会設立 : 1978年

1. 集会所にて、毎月、第2水曜、第4金曜『ふれあいサロン』を実施。
2. 新たに有志の熱意で毎月第1火曜、第3月曜『お喋り会』を立ちあげ身体のこと病気のこと、なんでも相談しやすいように敷居を低く参加しやすい雰囲気になっている。
3. 趣味を生かしたサークルも沢山開催されている。

⑤柏ビレジ自治会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 田中地域
2. 世帯数 : 1574世帯(平成29年4月)
3. 町会設立 : 1983年

多くの協力団体が自治会内でユニークな活動を行っている。自治会は金銭支援を行っている。

1. コミュニティサロンの「はなみずき」
2. 元気な高齢者の「新樹会」
3. 民生委員や健康づくり推進員などで構成される「アイビーサロン」
4. 植木の剪定や買い物、ごみ出しの支援を有料で行う「NPO 法人ビレジサポート」

⑥各町会等の高齢化施策

1. 高齢者の集いの場開設（町会等や有志が運営）
 - 1) ポールウォーキングによる健康寿命伸長イベントを計画中（柏市西原町会）
 - 2) 「ますのこ（週1回、多世代交流）」（松野台町会）
 - 3) 敬老会でカラオケ大会（布施新田町会）
2. サロン活動（民生委員、健康づくり推進員が中心となって運営）
 - 1) 「こもれび喫茶」を（月1回、柏の葉キャパス一番街町会）
 - 2) 「ふれあいサロン」（松の井町会）
 - 3) 「かたくりの会（月1回）」「ロコモ体操（月2回）」（豊住町会）
3. 支え合い活動
ごみ出し、植木剪定などを2年前から実施（花野井町会）



3) 加入促進活動

集合住宅の管理会社やオーナーとの連携、転入者への丁寧な説明と勧誘、町会紹介パンフレットの作成、イベント等の町会行事への案内など、様々な対応策を同時に行っている町会等や、集合住宅での入居条件に町会等加入がある町会等の加入率が高い。

今回の取材対象で、加入率90%以上の町会等は、柏の葉一丁目自治会、柏の葉キャパス一番街町会、酒井根四季美町会、光が丘団地自治会、つくしが丘町会であった。

【加入促進施策】

1. 集合住宅は、オーナーや管理会社が対応している。住宅建設中から管理会社と連携し、対応を検討している町会等もある。
(柏の葉一丁目自治会、柏の葉キャパース一番街町会、高柳区、あかね町町会、花野井町会、布施新田町会、つくしが丘町会、豊住町会)
2. 町会活動パンフレットや「町会加入のお願い」や総会資料、町会規約、等を配布し理解を求め、加入を促している。転入者が複数いる場合は説明会を開催している町会等もある。
(あかね町町会、柏市西原町会、手賀の杜自治会、松の井町会、花野井町会、柏ビレジ自治会、豊住町会)
3. 集合住宅のオーナーは自治会館の管理費用を、居住者には自治会費の納入をすることとなっている。持ち家居住者は両方を納入する。
(柏の葉一丁目自治会)
4. 転入者があった際は、イベント毎に積極的に誘い、加入を促す。
(酒井根四季美自治会)
5. 退会抑制策として、休会扱い等の対応をしている。(高柳区)

3) 防災防犯活動

①柏の葉一丁目自治会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 田中地域
2. 世帯数 : 188世帯(平成29年4月)
3. 町会設立 : 1987年
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長と自治会長は兼務

【防災活動施策】

1. 毎年1回(10月)に防災訓練を実施。80名ほどの参加がある。
2. 災害時には最初に会館に駆けつけた人がリーダーとして活動するマニュアルを整備。東京消防庁のOBがいて、アドバイスをしてもらっている。
3. 消火器を街路上に設置。

【防犯活動施策】

1. アンアンアカデミー受講者による「アンアンパトロール」を実施。有志23名が組織的に毎週1回活動。また十余二小を支援する個人が毎日登下校時に見守り活動を行なっている。
2. 防犯協会西原支部で、ステッカーやチョッキを作成、会館玄関に防犯カメラを設置した。

② 柏の葉キャンパス一番街町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 田中地域
2. 世帯数 : 977世帯（平成29年4月）
3. 町会設立 : 2009年
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長と自治会長は別

【防災活動施策】

1. 自主防災組織は、40名程度で構成され(実働は30名程度)、町会の役員にも割り当てられており、マニュアルに従って行動する。
2. 避難訓練は、毎年11月に実施しており600名くらいの参加があり、防災用カレーを配布。
3. 避難場所は、柏の葉小学校と柏の葉公園が指定されているが、マンションは耐震構造となっており、自宅にいた方が安全と認識している。

③ 高柳区の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 風早南部地域
2. 世帯数 : 3679世帯（平成29年4月）
3. 町会設立 : 1955年
4. 自主防災組織 : なし

【防災活動施策】

1. 「救命講習会」を開催し、人命救助の技能、知識、体力を高めるために、人工呼吸やAEDなどの普通救命講習を受けてもらい修了証書を発行。大勢の人が受講している。

【防犯活動施策】

1. 空き巣削減で始まった「防犯パトロール」は、気楽に参加できるメリットがあり、役員発掘の場ともなっている。防犯ボランティア全国大会で「団体功労賞」を受けた。

④あかね町町会の活動事例紹介

【町会概要】

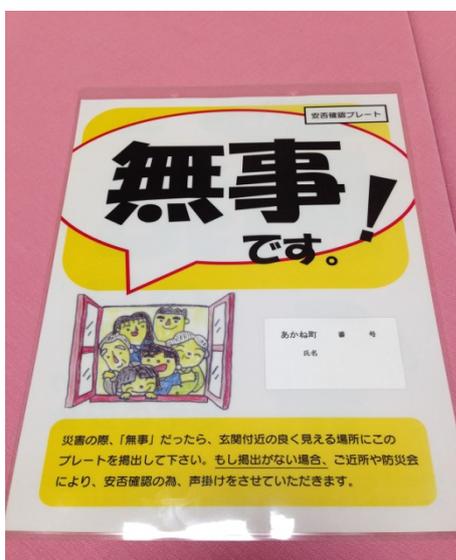
1. 地域 : 新田原地域
2. 世帯数 : 345世帯(平成29年4月)
3. 町会設立 : 1960年以前
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長と自治会長は別

【防災活動施策】

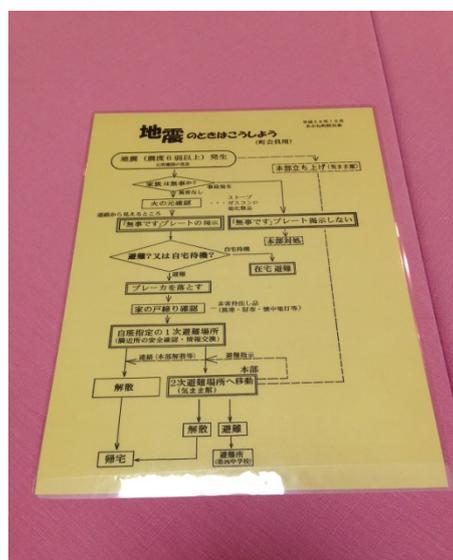
1. 毎年1回、防災訓練を実施し、昨年は189名が参加し、避難誘導、安否確認(「無事です」プレート掲示)、被害想定対応訓練を行った。また「あかね町災害対応マニュアル・地震のときはこうしよう」を作成し、全町会員に配布した。
2. 「あかね町防災会だより」を発行。

【防犯活動施策】

1. 「あかね町パトロール隊」が年間90回以上のパトロールを実施。柏第3小学校の「わかばパトロール隊」にも参加。年末パトロールは、「柏ハイム」と合同で実施している。
2. 放火対策として、屋外に消火器を設置している。



「無事です！」プレート



あかね町町会災害対応マニュアルの一部

⑤柏市西原町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 西原地域
2. 世帯数 : 660世帯（平成29年4月）
3. 町会設立 : 1967年
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長と町会長は兼務であるが、実働は独立して活動

【防災活動施策】

1. 2年前に設立した自主防災組織が、町会とは独立して活動。昨年度は避難所運営会議を実施、今年度は図上訓練を計画している。

⑥サルビア会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 豊四季台地域
2. 世帯数 : 176世帯（平成29年4月）
3. 町会設立 : 1978年
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長と会長は兼務

【防災活動施策】

1. 旭町消防署指導の下、振動車両はしご車等、毎年特徴のある訓練を実施。
2. 安否確認用オレンジ旗を、当初ベランダ側に出すよう指導していたが、駐車場から確認できる通路側に出すように訓練を変更した。

⑦手賀の杜自治会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 風早北部地域
2. 世帯数 : 962世帯（平成29年4月）
3. 町会設立 : 2005年
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長と自治会長は別

【防災活動施策】

1. 手賀の杜自主防災だよりを発信し、自助、近助を中心に『自分達の地域は自分達で守る』事が必要と啓蒙活動を実施。
2. 毎年9月下旬に手賀の杜地域総合防災訓練を実施。安否確認としてドアノブに『大丈夫サイン』タオルを結び付けることを奨励。
3. 集会所でHUG等、常に啓蒙活動を実施。

4. お祭りの時、消火訓練やバケツリレーを実施。毎月のように『防災意識の高揚を』図っている。

⑧松の井町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 南部地域
2. 世帯数 : 280世帯（平成29年4月）
3. 町会設立 : 1965年
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長と町会長は兼務

【防災活動施策】

1. 初期消火訓練や西部防災センターでの体験研修などを実施。

⑨松野台自治会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 増尾地域
2. 世帯数 : 574世帯（平成29年4月）
3. 町会設立 : 1973年
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長と自治会長は別

【防災活動施策】

1. 防災訓練を年2回実施。9月には増尾西小で全員参加型訓練を実施。9月、3月には『黄色いハンカチ』作戦で班長（前、現、次）3名が各家庭を訪問し安否確認実施。その結果を本部で集計。3年前より80%以上の達成率に向上してきた。
2. 2013年に開始した自主防災活動を住民に伝える手引書として、自主防災会独自で作上げたオリジナル冊子「防災の手引き」を配布し、防災意識の高揚を』図っている。「防災の手引き」は、非常持ち出し品、備蓄品、我が家の避難場所、緊急連絡先、かかりつけ病院等の電話番号等避難時に取るべき行動を各家庭で考えてもらう内容になっている。

⑩花野井町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 田中地域
2. 世帯数 : 1919世帯（平成29年4月）
3. 町会設立 : 1960年以前
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長と町会長は兼務

【防災活動施策】

1. 消防署の協力を得て、旧吉田邸の芝生庭で毎年防災訓練を実施。AED訓練等も実施し、70～100名が参加。
2. 全国で行われる文化財防火デーに合わせて、年1回、旧吉田邸にて消防署主催で、花野井町会、消防団、花野井小学校が協力した、防災訓練も実施している。
3. 町会全体の地図を会議室に張り出し、各戸にある井戸の場所をプロットしている。

【防犯活動施策】

1. 毎日防犯パトロールを男性は夜徒歩で行い、女性は昼間自転車で登校日のみ班単位で実施。

⑪布施新田町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 富勢地域
2. 世帯数 : 677世帯（平成29年4月）
3. 町会設立 : 1960年以前
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長と町会長は兼務

【防災活動施策】

1. 班長に第2土曜12時から2時間、防災会の打ち合わせを行っている。また班長経験者に防災活動への参加を促しており、現在28名体制となり、会員が防災意識に興味を持つよう活性化を進めている。
2. 自主防災訓練をH26年から年1回、富勢小学校で開催しており、K-Net対象者及び地域全体の安否確認試験を実施。班長は班全体でドアノックをして確認した。

【防犯活動施策】

1. 防犯パトロールを週3～4日、15～20名ほど参加して実施している。
2. 年末に富勢小の子供や小学校保護者の地区委員と一緒に回るパトロールを実施。

⑫柏ビレジ自治会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 田中地域
2. 世帯数 : 1574世帯（平成29年4月）

3. 町会設立 : 1983年
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長と自治会長は兼務

【防災活動施策】

1. 防災訓練では、緊急連絡訓練、無線連絡、近隣公園への避難、初期消火訓練、AED訓練を行った。また、起震車体験、煙体験、119番通報訓練など多彩な訓練を年に1回行っている。また防災用品の展示や防災ハンドブックを配布。
2. 自治会専用の防災井戸として、会館敷地内に「ビレジの泉」を設置。「ビレジの泉」は、自治会の創立30周年記念事業として防災井戸を設置したもので、専用の発電機と5つの蛇口を設置している。



防災井戸「ジレジの泉」

3. 年に2回(3、11月)自治会館の避難訓練(避難口確認)、毎月無線連絡訓練を行っている。
4. 会館内に無線機室があり、高い位置にアンテナを設置し感度を上げている。

⑬酒井根四季美自治会の活動事例紹介

【町会概要】

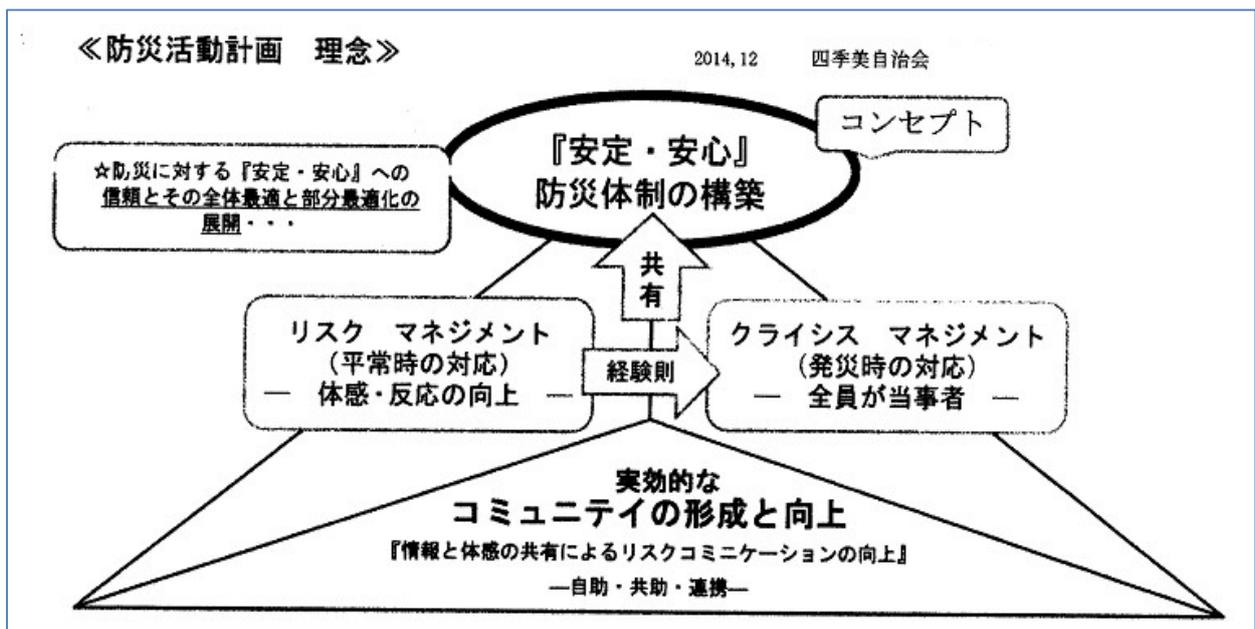
1. 地域 : 酒井根地域
2. 世帯数 : 33世帯(平成29年4月)
3. 町会設立 : 1983年
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長と自治会長は別

【防災活動施策】

1. 東日本大震災やその翌年以降の日常的な異常気象の多発をきっかけに「防災意識を高めるためにコミュニティの意識化が必要」との考えから

「自治防災会」を設立した。防災減災活動は、行政に細かな対応は求められず、自主的にやるしかないと考えている。

2. 自治防災会が中心となり、①防災専門家によるセミナー、②安否確認会（参加率は70%）、③「防災の備え」家庭事例会、④「防減災対応一覧」を各世帯に発行。設立初年度には防災体験会(西部防災センター)を実施。
3. 特に、女性の視点や女性のパワーを重視した施策を進めている。



⑭豊住町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 光が丘地域
2. 世帯数 : 874世帯 (平成29年4月)
3. 町会設立 : 1972年
4. 自主防災組織 : なし

【防災活動施策】

1. ふるさと協議会取材の防災訓練に参加(1回/年)。町会独自にAED実習や西部防災センターへの見学もある。
2. ふるさとセンターのホールの下に、備蓄倉庫を設置し、備蓄品をすぐに取り出せる工夫や、車いすでも使いやすいように1階は完全バリアフリー化を図っている。



ふるさとセンターホール
床下の備蓄倉庫

3. 最近の地域内での住宅火災の際、役員同士が連絡を取り合い、ふるさとセンターへ集まった。この時に、被災者がふるさとセンターを避難所として利用した経験がある。

⑮ 柏市南部の町会等の活動事例紹介

【防災活動施策】

1. 年に1回、自主防災会が主催し、防災訓練(初期消火訓練など)を実施。
2. スポーツ大会の準備の時にテント張りの訓練、競技種目として「大声で助けを呼んで担架で運ばれる」ものがあり競技そのものが訓練になっている。
3. 基本的に自宅が安全であり、自宅避難としている。
4. グラウンドおよび会館の近くに、手漕ぎの「災害防災井戸」が設置してあり、非常時に使用する。
5. 防災啓発の冊子を発行している。震災時の状況説明や備え、防災マップなどが分かり易くまとめられている。

【防犯活動施策】

1. ブロック委員会後に、委員がパトロールを実施し、違法駐車への警告や防犯に役立っている。
2. 年末には、会員から実施者を募って防犯パトロール(火の用心)を実施。大人と子どもで30名程度の参加があった。



4) 地域福祉活動

各町会等の地域福祉活動事例

1. お祭り

- 1) もちつき大会(毎年1月開催)は約1,000人が参加、「綱引き大会」を二番街町会との共催で行っている。また「ふるさと田中みこしまつり」(毎年9月開催)は、地域ぐるみの祭りで、輪踊りもあり「柏祭り」に匹敵する。(柏の葉キャンパス一番街町会)
- 2) 夏祭りは、子どもみこしや縁日があり、福引抽選会は人気がある。餅つき大会も実施。(あかね町町会)
- 3) 毎年8月に開催される夏祭りは夜店が出店し、各世帯に引換券を配布し、参加を促している。また隣接する一戸建てにも配布し、交流を計っている。昨年の夏祭りは、ハワイアンバンドが出演し盛り上がった。(サルビア会)
- 4) イベント部が、夏冬祭の企画、運営を行っている。(手賀の杜自治会)
- 5) 「ハッピー夏祭り」は、盆踊りや子供向けイベントを開催。自治会住民に特殊造形物製作の本職の人がいて、子供向けアクションショーが人気となっている。武道の増尾支部に所属する子供達がアクションショー演技者の中心となって切れのあるショーになっている。(松野台自治会)
- 6) 「ふれあい花野井祭り」(8月)には延べ3,000人が参加、「芋煮会(11月、高齢者も大勢参加)」には800名が参加、「凧揚げ教室、凧揚げ大会」(1月)も開催。(花野井町会)
- 7) 子供みこし祭り(7月)、餅つき大会(12月)を実施。以前は、町会でお祭りを行っていたが、場所が確保できず実施できなくなった。(布施新田町会)
- 8) 夏まつりや餅つき大会を開催。実行委員会を設置して進めており、更にイベント等を経験した元役員などが「サポータ」として大きな協力をもらい、「疾風太鼓」「踊りの会」には、イベントを盛り上げてくれる。年2回の商店街でのイベント(模擬店、ゲームやイルミネーションなど)は、「イベントサークル」が主体で開催しており、自治会は後援をしている。(柏ビレジ自治会)

- 9) 夏祭りを盛大に開催し、神輿渡御、パレード、盆踊り、出店等があり1000名以上の参加がある。(柏市つくしが丘町会)

2. 文化祭

- 1) 「みんなの祭り」は、商業施設とも協力して実施する文化祭的なお祭りを開催。(柏の葉キャンパス一番街町会)
- 2) 地区の伝統文化(おびしゃ)を継承している。(高柳区)

3. 健康づくり

- 1) 町会内の名所旧跡を巡る「町会ウオーキング」(6月)、「ゴルフ大会」(10月)、またスポーツクラブが主催する「スポーツフェスティバル」(9月)に町会が協力し開催。(花野井町会)

4. 子ども会施策など

- 1) 柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会主催で、「赤ちゃん・パパママあつまれ!」イベントが定期的に行われている。
(柏の葉キャンパス一番街町会)
- 2) 児童シニア部が、子育て交流会、お寺でのプチ修行、ハロウィン祭などを企画、運営。(手賀の杜自治会)
- 3) 子ども会の経費はすべて自治会で負担しており、主に若いお母さん達が運営している。子ども会の役員は、自治会の会合にも出席しており、自治会よりイベントへの応援を依頼されている。
子ども会は、子どものためにやっている活動であり、自治会は「資金は出すが、運営には口出しをしない」スタンスである。
(柏ビレジ自治会)
- 4) 「新生児祝い金」を創設。(あかね町町会)

5. ユニークな活動

- 1) バス研修旅行(リンゴ園、袋田の滝)を、初めて実施。(柏市西原町会)
- 2) 集会所の利用が活発。柏西口地域包括支援センターによる講座を2ヶ月に1回開催、毎回20名程参加。利用料は、公的団体は無料、趣味サークルは有料。午前、午後、夜と三部制。集会所エアコン使用は、公的団体、趣味サークルとも、コイン制を採用。畳の部屋を椅子が使えるようにフローリング仕様に変更、高齢者に優しい部屋に改善した。
集会所隣の有料家庭菜園を1年契約で、20区画用意。(サルビア会)

- 3) 自治防災会が中心となり、「防災意識を高くするには、地域コミュニティを意識する必要がある」との考えから、①ファミリー(ワンコイン)懇親会、②餅つき、③健康支援イベント、④農家と連携したイチゴ狩りなど、ユニークな行事を実施し、コミュニティ意識の向上に努めている。(酒井根四季美自治会)
- 4) 年に1回、バス旅行を行っている。関東周辺に、バス2~3台で観光と美味しい食事を目玉に開催し、児童から高齢者まで、若い世帯も含め多くの参加者がいる。応募の案内を出すとすぐに満席となる。参加費は3000円/人程度。(豊住町会)

5) 環境美化活動

各町会等の環境活動事例

1. ごみ集積所施策

- 1) 流山市での設置事例を参考に、可動式のカゴの試験設置を検討している。(柏の葉一丁目自治会)
- 2) 美化部が、2ヶ月に1回、住民による一斉清掃を実施。またゴミ集積所の管理運営を行っている。(手賀の杜自治会)
- 3) 近年、からす対策のために「ファスナー付ごみネット」が多く使われるようになった。その他のごみネットも使用されており、自治会からの補助金を出している。(柏ビレジ自治会)

2. 住居周辺の環境美化運動

- 1) 景観保護条例によって、個人宅の改装等に制限がかけられている。多少の不便を強いられているが、全体的に良好な景観が維持されている。(柏の葉1丁目自治会)
- 2) 公園整備として、町会役員、婦人部、子ども会が輪番で花壇の水やり、また「里親活動」として町会役員にて清掃や草取りなどを実施している(1回/月)。(あかね町町会)
- 3) 町内のポイ捨て状況を調査するため、道路を描いた模造紙にシールを、班長さんに貼ってもらい、全体が見えるようにした。(柏市西原町会)



ごみのポイ捨てマップ

4) 「環境維持委員会」を設置し、その中に「水辺の公園部会」があり、調整池周辺の景観や水質を良くする協議を柏市役所と行っている。調整池が平成 25 年に溢れる水害があった。

自治会内に 60 軒程度の空き家があり、「空き家対策部会」で対策を検討しており、現在、毎年各班で空き家の植木の状態や家屋の破損などの状況調査などを行っている。

環境維持のため、「緑地協定運営代表委員会」「建築協定運営委員会」があり、関係者間で運営している。(柏ビレジ自治会)

6) 組織運営

各町会等の組織運営事例

1. 運営体制

1) 会長は推薦で、役員会にて決定、他の役員は会長が推薦する。くじ引きになることもあり。新しい事業を進められるよう、新旧会議を 2 回開催し、新役員候補が情報収集を努めて、総会資料を作成する。

「自治会のあり方委員会」で、自治会の仕組み（役員数や役割等の規程の見直し）の改革を行う予定。通常総会で議決を得る方法だと起草から実現まで 4 年もかかってしまうので、臨時総会を開催し、来年度から反映できるようにしたい。(柏の葉 1 丁目自治会)

- 2) 役員の男女比率は、16人中男性10人、女性5人でバランスが取れている。役員の選出は、完全輪番制、任期1年のため予程の事情が無い限り断る人はいない、但し町会長は、役員の中からの互選なので若干の難しさはある。

前会長を初め経験者へ気軽に相談できるような環境であり、且つ、町会長／副会長などという組織上の上下意識が薄く組織上の役割に関係なく協力し合える関係になっている。

イベントは、実行委員会を立ち上げ、実質に実行委員会が取り仕切る。
(柏の葉キャンパス一番街町会)

- 3) 町会役員は、13名(内女性役員は3名)で、任期は2年。9つの班があり理事(班長)がおり、任期は1年。組織構成は、総務部(広報含む)、防災会、婦人部会、子供会、青年部、監査からなる。子供会には存続問題があり、ふるさと協議会内に「子ども部」をつくり対応を検討。

「K-Net 各班防災の会」開催、「青年部」創設、「サポーター制度」導入など様々な施策を実行し、町会会員や若い人の参画を促している。
(あかね町町会)

- 4) 会長、班長等役員は毎年交代する。役員等は、まず5ブロックの中で、班長(1ブロックで3~4名)とブロック長(2名)が決まり、ブロック長(10名)の中から役員が互選で決まる。班長やブロック長は順番で決まることが多く、突然、会長になることもある。
班長以上が集まる委員会は、グループ討議ができる形に変更し、コミュニケーションが取れやすいように工夫をした。(柏市西原町会)

- 5) 役員6名+会計監査2名=8名、推薦制を採用。任期2年延長2年で、最長4年間。4棟×7階=28名のフロア委員(班長)は任期1年。
フロア委員とは別に各棟に、担当役員がいる。(サルビア会)

- 6) 全役員は1年輪番制、70名の班長が一堂に会して会長等役職を決める。じゃんけんで決める時もある。自主防災組織の役員は継続して引き受ける人もいて頼りになる。自治会役員の半数が女性役員。会議の議題はメール配信が主となっている。
引継ぎは文書で、各部署毎に2~3回の割合で実施。(手賀の杜自治会)

- 7) 役員の任期は1年、副会長には3つの役割(広報、行事、防犯防災)がある。20世帯に1人の割合で班長(入居順に務める)がいる。(松の井町会)

- 8) 自治会組織を5ブロック、30班に分け。2年継続制。『前、現、次』と重複して役員の経験を生かしてもらう体制。
ブロック長には、次期候補者を3月上旬までに推薦してもらう。
(松野台自治会)
- 9) 役員任期2年、4地区長があり、その上に三役(会長、副会長3名と会計)で役員は25名の体制。通常役員は2期4年勤め、次期会長は現会長が後任を決めるが、ふさわしそうな人を役員皆で探している。
毎年現役員を、半数位を残して交替することにより、業務がスムーズに継続できる。(花野井町会)
- 10) 執行役員は5名で、会長、防災防犯担当副会長、ふるさと会館長兼防犯灯担当副会長、会計担当副会長。役員会議は毎月実施。59の班があり、同数の班長と執行役員で班長会を年5回開催。総会は、3月と4月に毎年2回開催しており、役員と、班長が代議員として出席する。
役員は役員選考会議で推薦され、会長は合議により選定する。役員には必ず農家実行委員から1名推薦される。(布施新田町会)
- 11) 自治会役員の選出は、公募もしているが応募が無いため、実際は各支部で対応して選出。各支部で選出方法は異なり、順番や抽選をしている支部もある。会長候補は互選で選出される。女性役員は、支部長や副支部長を含めると40%(18人/45人)が就任しており、活躍している。

役員業務の引継ぎは、引継ぎ会にて行っている。引継ぎ会は4月に部単位で行い、5月に部長同士で行う。旧役員は、引継ぎ後にアドバイザーとして1年間活動し、会長経験者は「相談役」として長く、協力をする体制があり、新役員の大きな後ろ盾となっている。

町会費は、指定銀行に口座がある世帯は、自動引き落とし。
自治会の中に「活性化委員会」「環境維持委員会」「福祉連絡協議会」が設置されており、多くの自治会員が協力している。

筑波大学と連携し「持続可能なまちづくり」をテーマに、シンポジウム開催の準備を進めている。これは次世代のリーダーづくりが目的である。
(柏ビレジ自治会)

- 12) 自治会役員は4名で、任期は1年(再任可)で輪番制。今まで毎年役員が交代していたが、現会長は初の2期目。女性役員が就任する時もあり。
会長の選出は規約では互選となっているが、実際は指名で就任している。
(酒井根四季美自治会)

- 13) 役員 18 名(女性 5 名)、理事 8 名の体制。「若手中堅の会」から町会役員に就任される方もおり、役員の固定化を防いでいる。新たに町会役員になっても、歴代の町会長経験者が、顧問や相談役となり支援を行う体制ができている。(柏市つくしが丘町会)
- 14) 役員は、指名で引き受けてもらっている。規約で副会長以下は「次の人が見つかるまでは継続する」ことになっている。(豊住町会)
- 15) 町会会員や若い人の参画を促し、各役員の人脈で後任者を一本釣りで推薦し、役員候補を確保している。
(柏の葉 1 丁目自治会、高柳区、あかね町町会)

2. 町会等運営や活動の記録、マニュアル化

- 1) 町会長の引継ぎ事項は、初代の会長が作成された電子データを、代々、手直しを加えながら CD-ROM 等の媒体で申し送りしている。
(柏の葉キャンパス一番街町会)
- 2) 役員の内継ぎは、見える化を行い、誰でも同じ情報を持つように、43 冊の町会の役割り等をまとめたマニュアルを作成し、全班長以上に配布。会議を「お知らせ会議」と「知恵だし会議」に分けて話すよう、会議運営を工夫している。(柏市西原町会)

3. 広報活動

- 1) 広報の担当者が 2 名おり、役員会議で吟味された内容を「広報柏の葉」として自治会内部の事業活動について、戸別配布している。
(柏の葉 1 丁目自治会)
- 2) 回覧は無く、基本的に全戸配布(各棟 1 階のポストへ役員が投函)とし、市からの回覧要請物は掲示板を利用。(柏の葉キャンパス一番街町会)
- 3) 広報誌「あかね町だより」(2~3号/年)を全戸配布し、「あかね町防災会だより」も発行して、活動内容の周知を積極的に行っている。
(あかね町町会)

4) 回覧の回数は多いがよく回っている。HPはあるが、あまり知られていない様子。広報書記部が、役員会・総会の議事録作成、ホームページの管理運営を行っている。(手賀の杜自治会)

→ <http://www.chokai.info/teganomori/>

5) 広報部が運営している自治会のホームページは充実している。(柏ビレッジ自治会)

→ <http://kashiwa-village.com/>

7) アルバム

平成29年度 第一回町会等情報交換会 (平成28年9月22日)



柏市高齢者支援課より説明



熱が入るグループ討議

平成29年度 第二回町会等情報交換会 (平成30年2月16日)



テーマ毎の分科会で議論



討議内容の発表

各町会等役員インタビュー風景



柏の葉一丁目自治会
国広会長、役員の皆さん



柏の葉キャンパス一番街町会
伊藤前会長 白藤会長



高柳区
第4町会 久保会長 大谷区長



あかね町町会 久米会長、
役員の皆さん



柏市西原町会 武田会長



サルビア会 土肥会長



手賀の杜自治会 丸山会長



松の井町会 井上会長



松野台自治会
神田顧問 白石会長



布施新田町会
曾我部会長 後藤副会長



花野井町会 松丸会長、役員の皆さん



柏ビレジ自治会
竹田会長 宮崎副会長



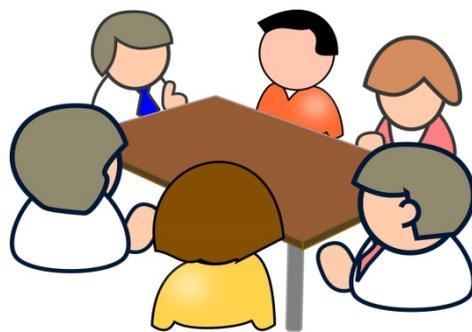
酒井根四季美自治会
熊坂会長 大久保 田口副会長
自治防災会長



柏市つくしが丘町会 井上会長、
役員の皆さん



豊住町会 宮崎会長、
役員の皆さん



5. 資料編

1) お役立ち事業（補助金等）

- ①行政連絡業務交付金
- ②掲示板設置等補助金
- ③自主防災組織設立補助金
- ④防犯灯維持費補助金
- ⑤防犯灯設置費補助金
- ⑥ふるさとセンター整備事業補助金
- ⑦地域活動支援補助金（プラステン）
- ⑧資源回収報償金

<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/053000/p004176.html>

2) 窓口案内

柏市 地域づくり推進部 地域支援課

電話番号 : 04-7167-1126

ファックス : 04-7167-8103

ホームページ :

<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/053000/index.html>

3) 参考資料

- ①柏市の町会、自治会等一覧

<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/053000/p004177.html>

- ②地域組織と柏市との協働の在り方に関する提言

http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/053000/teigen_d/fil/teigen.pdf

- ③協働事業提案（柏市地域支援課/柏市地域協働を考える会）

<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/053000/souronjyouhokoukankai.html>



6. インタビューをおえて

1) 柏市地域協働を考える会の所感

まず、インタビューに応じて頂いた各町会、自治会等の役員の皆様には、大きなご協力を頂き、感謝申し上げます。ありがとうございました。

各町会、自治会、区等の地域組織では、ご苦労の多い中、その地域に合わせ、地域の方々のために、大変努力されていることを感じることができました。その工夫を、他の地域でご苦労されている地域組織の役員の皆様と情報共有し、是非、地域活動のご参考にして頂きたいと思います。

高齢化が進む中で、地域の担い手確保、若い人の地域活動への巻き込みが大きな共通課題であるとともに、高齢者への支援事業が急務となっており、地域活動の方法や考え方を、見直す時期でもあると感じます。

地域組織間の横の連携を強め、楽しく、安心して住める地域づくりに、私たちも、皆様と一緒に考えていきたいと思えます。

2) 連絡先

柏市地域協働を考える会 事務局（深津英雄）

電話番号/FAX：04-7174-2483

メール：h-fukatsu@jcom.home.ne.jp

楽しい地域活動のコツ

- 1) 活動3割、楽しみ7割
- 2) 人と接することを楽しむ
- 3) 深追いしない
- 4) 寛容のこころ。